

令和3年度

業務報告書

未来へ駆ける市町村地域づくり総合支援事業
美郷町地域経済循環分析（家計調査）委託業務

令和4年3月

宮崎県美郷町

一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所

目次

I 全体概要編	1
1. 業務目的	1
2. 業務の全体フローと業務体制	1
(1) 業務の全体フロー	1
(2) 業務体制	1
II 調査概要編	2
1. 調査概要	2
(1) 調査期間	2
(2) 国の【家計調査年報・生活消費実態調査】との相違点	2
(3) 美郷町の世帯数・世帯構成割合	3
(4) 調査のフロー	5
2. 集計方法と取得標本数	6
(1) 7つの世帯類型	6
(2) 集計項目	6
(3) 集計手順と集計イメージ	7
(4) 調査対象サンプル数と補正方法	8
III 調査集計結果・移住後シミュレーション編	10
1. 調査結果	10
(1) 年間支出額	10
(2) 食費・光熱水費の支出額	11
(3) 域内での購入状況	14
(4) 美郷町世帯全体の食費・光熱水費支出額	15
(5) 美郷町全体の食費部門に関する所得取り戻しの可能性	15
(6) 一覧表	16
2. 移住後生活費シミュレーション	19
(1) シミュレーション1（30代子連れ夫婦の移住）	20
(2) シミュレーション2（20代前半夫婦の移住）	21
(3) シミュレーション3（60代前半夫婦の移住）	22
IV 報告会編	23
1. 報告講演会「美郷町地域経済循環分析（家計調査）報告会」	23
(1) 概要	23
(2) 当日の進行	23
(3) 報告内容と成果	23

V 政策提言編 ～所得の取り戻しに向けて～ 24

1. 調査結果を活かし、ターゲットを明確にした起業支援 24
2. 美郷町内に域内循環の仕組みづくりを 25
3. 循環型社会への進化を展望 26

I 全体概要編

1. 業務目的

定住、食料・燃料の地産地消、地域住民を対象とした小売・サービス業の確保、教育・医療・福祉施策などを効果的に進めるには、地域の世帯の家計支出の把握が非常に重要であるが、中山間地域の家計支出については、既存の統計では把握が困難な状況にある。

本調査では、美郷町在住世帯の家計の町内消費割合や部門・品目別の消費動向を数値化し、地域経済の循環分析を行うことで美郷町の商工業振興を始めとする様々な施策の基礎となるデータを取得することを目的とする。

2. 業務の全体フローと業務体制

(1) 業務の全体フロー

- ① 令和3年6月 家計調査世帯の収集と準備
- ② 令和3年7月～11月 家計調査の実施
- ③ 令和3年8月～令和4年2月 家計調査の集計及び分析
- ④ 令和4年3月 成果報告会の実施
- ⑤ 令和4年3月 報告書作成と納品

(2) 業務体制

業務受託者：一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所

業務責任者：代表理事 藤山 浩

分 析：理事 森山 慶久

業務支援：研究マネージャー 山下 知子

業務支援：特別研究員 中尾 祥子

Ⅱ 調査概要編

1. 調査概要

(1) 調査期間

調査期間は2021年7～9月の3ヶ月、2021年10～11月の2ヶ月を対象として実施した。1世帯当たり連続した2ヶ月又は3ヶ月を1サンプルとし、40世帯(40サンプル)を取得することを目標とした。

(2) 国の【家計調査年報・生活消費実態調査】との相違点

国の実施する家計調査として「家計調査年報」と「全国消費実態調査」がある。

(2021年9月時点)

家計調査年報は全国平均の家計収支の時系列の動きの把握を目的に毎月実施され、全国消費実態調査は家計収支・貯蓄・資産等の、水準・構造・地域別特徴の把握を目的に5年おきに実施されている。双方とも人口が集中する都市部の世帯支出傾向が強く反映され、都道府県・都市部が集計単位であることから、都市部や広域エリアでのマクロな消費動向や消費実態を把握するのに向いている。

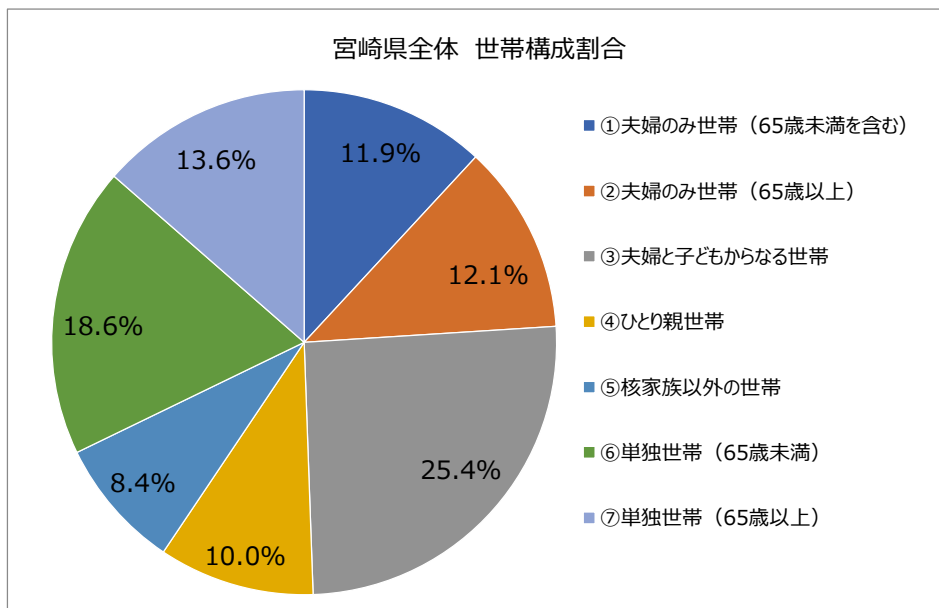
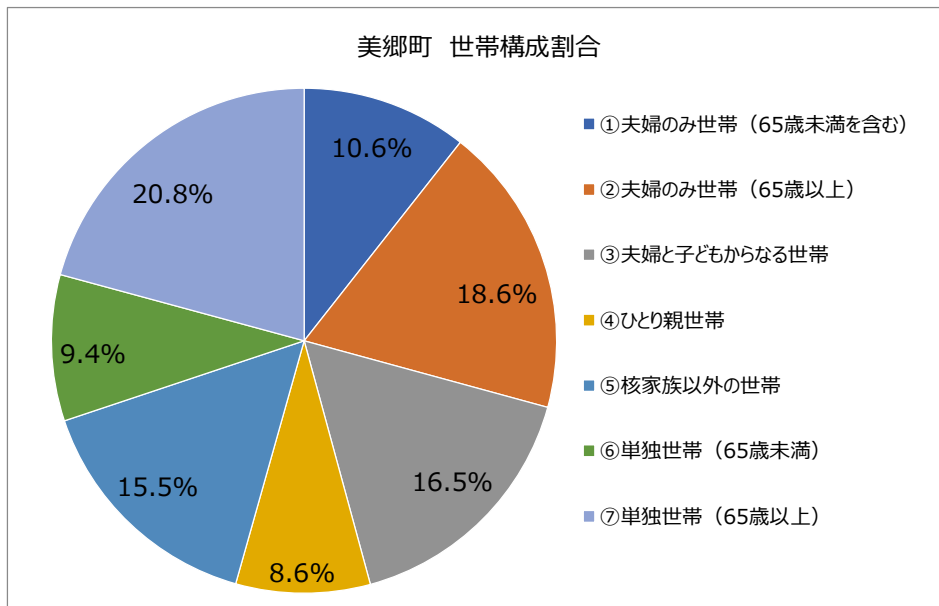
本調査の家計調査では、上記2つの調査で把握が困難な中山間地域を主な対象とし、また、小地域や1次生活圈での世帯の家計支出や購買場所の調査を実施し、より実態に近い地域属性・家族属性を捉えた家計支出データの取得が可能となる。

(3) 美郷町の世帯数・世帯構成割合

美郷町における、世帯構成別世帯数・世帯構成割合を示す。

		①夫婦のみ世帯 (65歳未満を含む)	②夫婦のみ世帯 (65歳以上)	③夫婦と子どもからなる世帯	④ひとり親世帯	⑤核家族以外の世帯	⑥単独世帯 (65歳未満)	⑦単独世帯 (65歳以上)	①～⑦ 総世帯数
世帯数	美郷町	247	433	384	200	360	218	483	2,325
	宮崎県全体	54,898	55,810	117,328	46,082	38,809	85,827	62,636	461,389
世帯構成割合	美郷町	10.6%	18.6%	16.5%	8.6%	15.5%	9.4%	20.8%	100%
	宮崎県全体	11.9%	12.1%	25.4%	10.0%	8.4%	18.6%	13.6%	100%

※2015年国勢調査統計 一般世帯より



美郷町では65歳以上のみの世帯が全体の約4割(②+⑦)を占め、高齢者を中心とした買物弱者への支援(移動販売、デマンドバス等)が必要だと考える。また、美郷町

の平均世帯人数は近隣市町村と比較すると小さくなっていることから、3世代同居世帯割合も近隣市町村と比べて少ないと予測される。

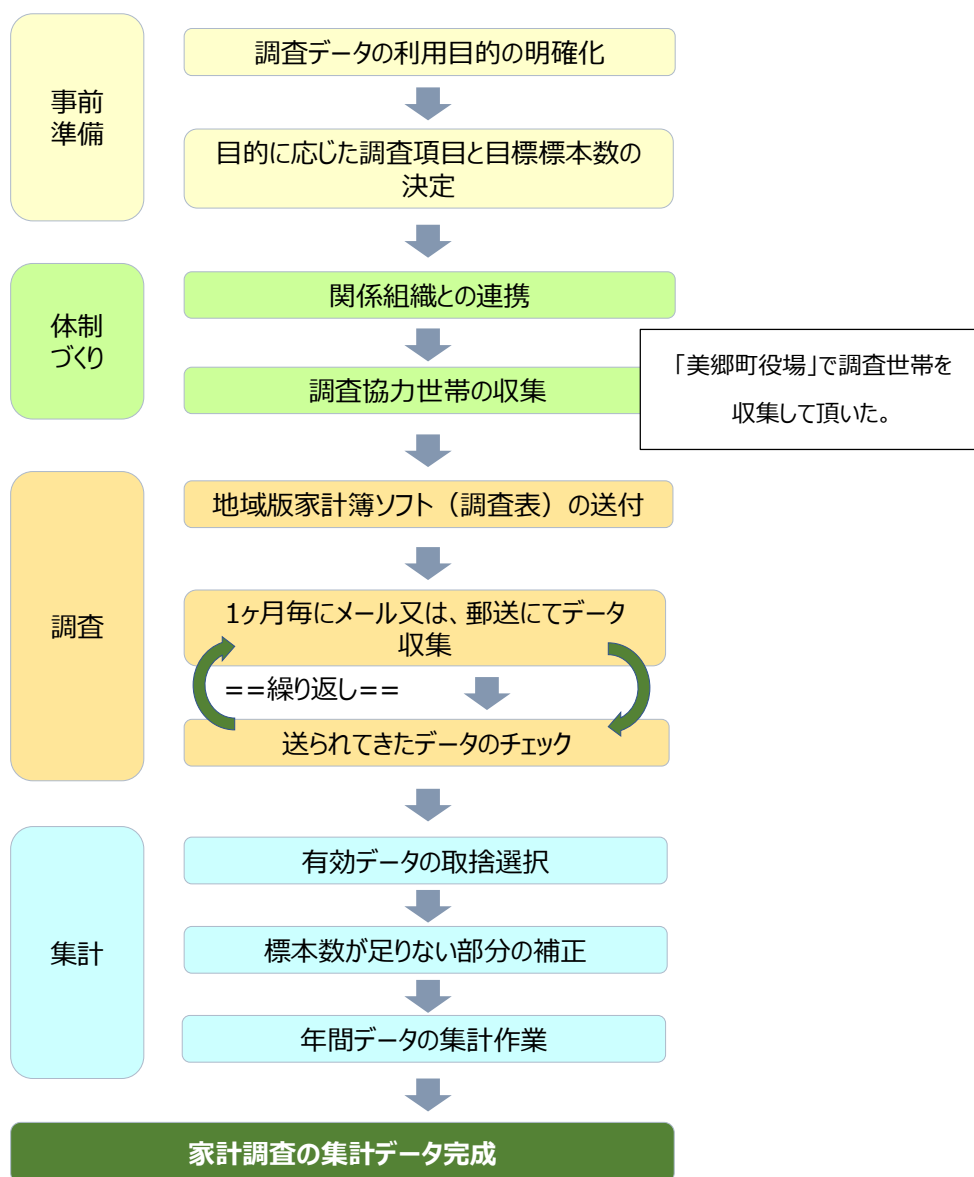
- ・ 美郷町の平均世帯人員：2.26人
- ・ 宮崎県の平均世帯人員：2.31人

<参考：宮崎縣市町村の平均世帯人数【2015年国勢調査統計 一般世帯より】>

	世帯数	世帯人数	平均世帯人数	順位
宮崎市	174,942	389,691	2.23	24
都城市	69,767	159,398	2.28	19
延岡市	51,622	120,996	2.34	16
日南市	22,580	51,579	2.28	20
小林市	19,405	44,247	2.28	21
日向市	24,709	59,483	2.41	14
串間市	7,922	17,692	2.23	23
西都市	11,965	29,496	2.47	12
えびの市	8,551	18,930	2.21	25
三股町	9,935	24,591	2.48	10
高原町	3,898	9,019	2.31	18
国富町	7,542	18,521	2.46	13
綾町	2,907	7,179	2.47	11
高鍋町	8,647	20,210	2.34	17
新富町	6,336	16,468	2.60	4
西米良村	508	1,059	2.08	26
木城町	1,948	4,996	2.56	8
川南町	5,913	15,484	2.62	2
都農町	3,928	10,203	2.60	5
門川町	6,800	17,540	2.58	6
諸塚村	686	1,699	2.48	9
椎葉村	1,125	2,707	2.41	15
美郷町	2,325	5,260	2.26	22
高千穂町	4,667	12,141	2.60	3
日之影町	1,489	3,830	2.57	7
五ヶ瀬町	1,272	3,586	2.82	1
宮崎県全体	461,389	1,066,005	2.31	—

(4) 調査のフロー

美郷町の家計調査は以下のフローで実施した。



2. 集計方法と取得標本数

(1) 7つの世帯類型

家計調査では、調査対象世帯を7つの世帯類型に分類し、それぞれ世帯類型で家計支出構造の把握を行う。本世帯類型は、国勢調査報告の世帯類型を再構成したもので、家族類型別の支出構造の違いを把握するために必要なカテゴリーであると考ええる。

7世帯類型
①夫婦のみ世帯（65歳未満含む）
②夫婦のみ世帯（夫婦とも65歳以上）
③夫婦と子供から成る世帯
④ひとり親世帯
⑤核家族以外の世帯
⑥単身世帯（65歳未満）
⑦単身世帯（65歳以上）

(2) 集計項目

取得した家計支出データは品目毎に以下の集計グループに分類後、品目毎且つ、7世帯類型毎に、年間1世帯当たりの平均支出額を算出した。

なお、品目を集計グループに分類するのは、支出額が0円なのか、データそのものが入っていないのかを判別するためのものであり、集計グループの合計支出額が1円以上ならばデータが入っていると判断し、集計グループ毎の母集団としてカウントしている。

集計グループ一覧【()内は品目数】

- ・ 食費 (25)
- ・ 日用品・衣服・美容・余暇 (14)
- ・ 光熱水費 (10)
- ・ 車の燃料代 (3)
- ・ 住まい関係、家具・家電製品、車関係 (20)
- ・ 通信費 (6)
- ・ 子ども関係 (11)
- ・ 親の学習活動関係 (4)
- ・ 保健医療健康費・福祉サービス (10)
- ・ 保険・税金 (20)
- ・ つきあい費・旅費・交通費・その他 (15)

(3) 集計手順と集計イメージ

集計対象とする品目毎かつ月毎（①～③まで）に以下の手順で実施した。

① 母集団となる世帯数を算出する。

集計グループの合計支出額が1円以上ならば、母集団とカウントする。

逆に0円ならば、データそのものが入っていないと判断し、カウントしない。

※集計グループは前項を参照のこと。

② 支出合計を算出する。

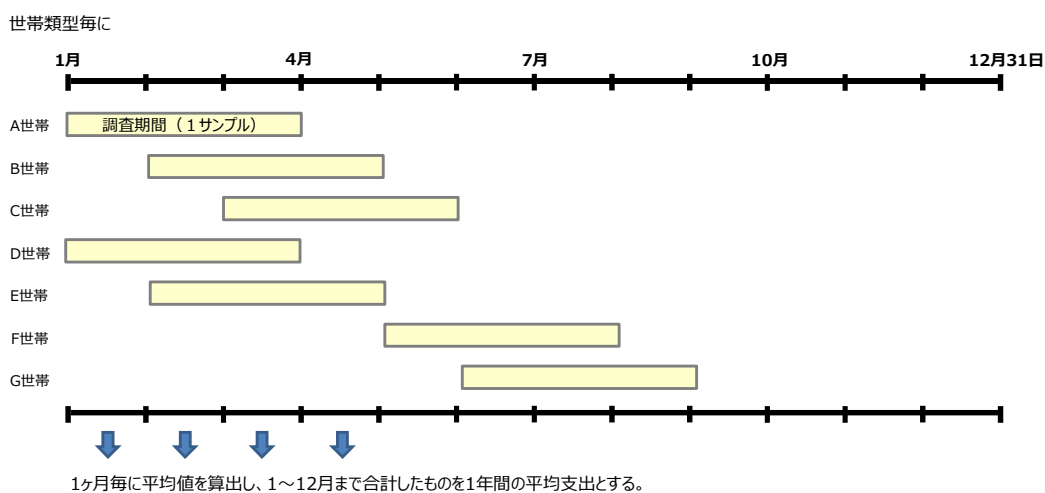
③ 支出合計を世帯数で乗算し、月平均支出額を算出する。

④ 1～12月までの月平均を合計し、年間1世帯当たりの平均支出額とする。

【1品目の年間平均支出額を算出する計算式】

$$\text{年間平均支出額} = \sum_{n=1}^{12} \text{n月総支出額} / \text{n月世帯数}$$

【集計イメージ】



本調査の調査期間は7～11の5ヶ月間であるため、補正をかけて年間支出を算出した。補正方法は次項に掲載する。

(4) 調査対象サンプル数と補正方法

美郷町において世帯類型別に※₁ 望まれる標本数及び、実際の取得標本数を以下に記す。

	①夫婦のみ世帯 (65歳未満を含む)	②夫婦のみ世帯 (65歳以上)	③夫婦と子ども からなる世帯	④ひとり親世帯	⑤核家族以外の世帯	⑥単独世帯 (65歳未満)	⑦単独世帯 (65歳以上)
世帯数	247	433	384	200	360	218	483
望まれる標本数	4	7	7	4	6	4	8
取得標本数	4	7	7	3	6	3	8
取得標本割合	100%	100%	100%	75%	100%	75%	100%

世帯類型④と⑥では※₁ 望まれる標本数が取得困難であったことに加え、本調査期間は7～11月の5ヶ月間のみであったため、本調査データは以下の補正を実施している。

- 5ヶ月間支出の補正方法

島根県中山間地域研究センターで収集している「島根・広島県の中山間地域世帯での家計支出」と、美郷町の支出状況は同じ中山間地域という点から類似していると仮定し、中山間地域研究センターが収集している家計調査データ（以下「センター家計調査データ」という）を用いて5ヶ月間のデータを、12ヶ月分の年間データに補正した。

補正計算式を以下に示す。

美郷町年間支出額 =

$$\text{美郷町データ 7～11 月} \div \text{センター家計調査データ 7～11 月分} \times \text{センター家計調査データ 1～12 月}$$

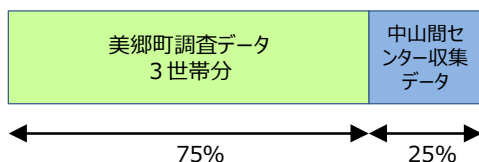
- 世帯類型毎食料品目別支出額の補正方法

島根県中山間地域研究センターで収集している「島根・広島県の中山間地域世帯での家計支出」と、美郷町の支出状況は同じ中山間地域という点から類似していると仮定し、不足している取得標本割合分をセンター家計調査データで補正した。

ただし、50%を超えてセンター家計調査データで補正すると、美郷町の特徴が見えなくなる可能性があるため、センター家計調査データの補正割合は最大でも50%を限度とした。

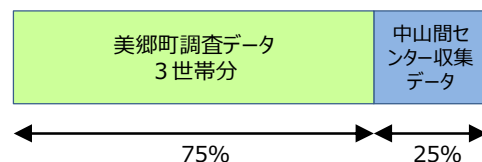
補正イメージ：

④ひとり親世帯の場合



補正イメージ：

⑥単独世帯 (65歳未満) の場合

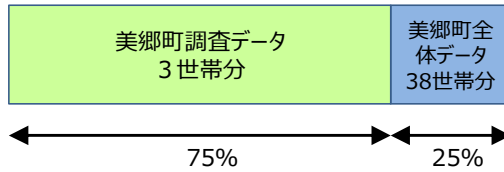


- 世帯類型毎食料域内購入率の補正方法

世帯類型が異なっても同じ域内であれば、域内購入率の傾向も類似している仮定し、不足している取得標本割合分を全世帯類型の平均値で補正した。

ただし、50%を超えて全世帯類型の平均値で補正すると、世帯類型毎の特徴が見えなくなる可能性があるため、全世帯類型の平均値の補正割合は最大でも50%を限度とした。

補正イメージ：④ひとり親世帯の場合



※1 望まれる標本数とは

美郷町の世帯分布が正規分布に従う母集団と仮定の下、信頼度95%、母比率50%、誤差率±15%以下の水準を確保するために最低限必要な標本数である。

Ⅲ 調査集計結果・移住後シミュレーション編

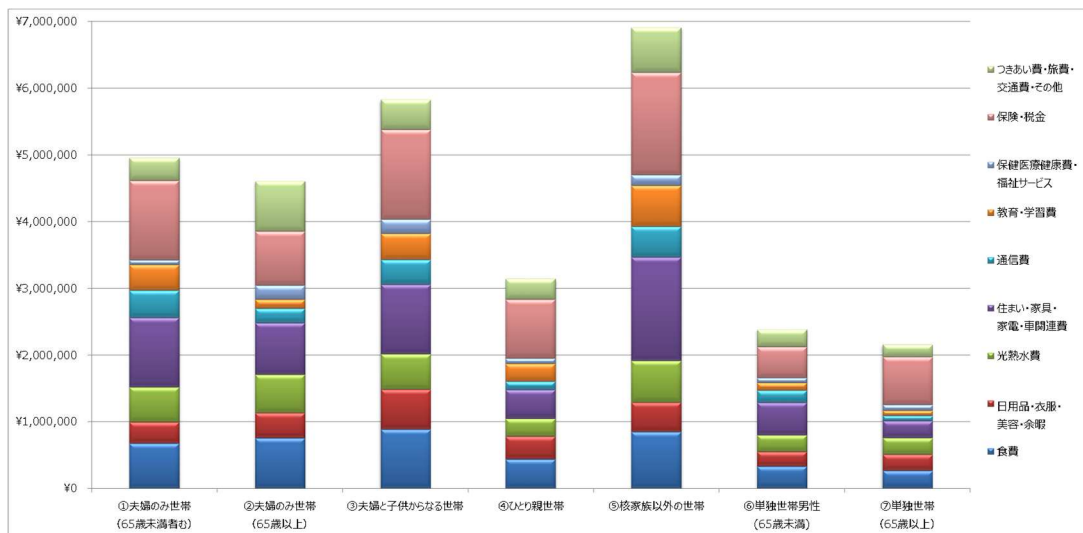
1. 調査結果

今回の調査で取得できたサンプル数と調査期間（5ヶ月間）を考慮すると、美郷町全体の支出傾向は調査した世帯の支出傾向に大きく左右されるため、サンプル数が少数であっても、比較的支出傾向が大きく外れないと予測される【食費】【光熱水費】分野を中心に集計結果を掲載する。

今後も継続して家計支出調査を実施してデータの蓄積量を増やすことで客観性を増し、【食費・光熱水費】だけでなく、子育てに係る費用や高齢世帯の生活費など、地域づくりにとって重要な、より精度の高いデータを利用できるようになる。

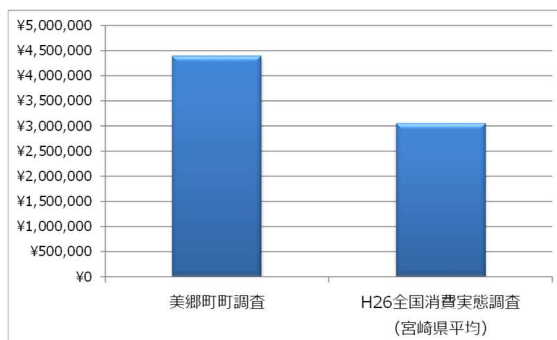
(1) 年間支出額

ア) 世帯類型別 支出大分類毎の支出額（1世帯当たり平均）



1世帯当たりの支出額が最も高いのは、世帯人数が多いと予測される「⑤核家族以外の世帯」であった。また、世帯類型によって支出額が大きく異なることが分かる。

イ) 全国消費実態調査【宮崎県】との年間支出額比較（2人以上の世帯のみ）

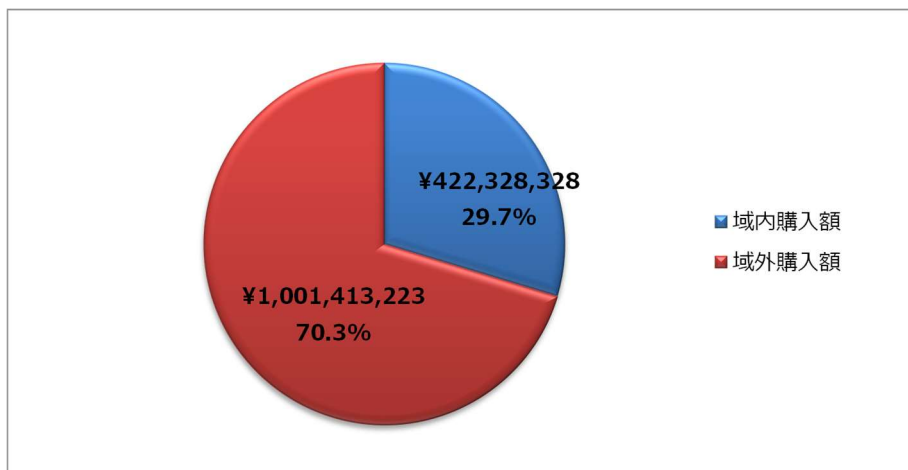


H26年全国消費実態調査の宮崎県平均と本調査結果を比較すると、約150万円分も支出額に差が生じた。これは、今回の調査対象世帯が比較的高所得世帯に偏ったことと、調査時点の違いが背景として考えられる。

(2) 食費・光熱水費の支出額

サンプル数が少数であっても、比較的支出傾向が大きく外れないと予測される【食費】
【光熱水費】分野の集計結果を掲載する。

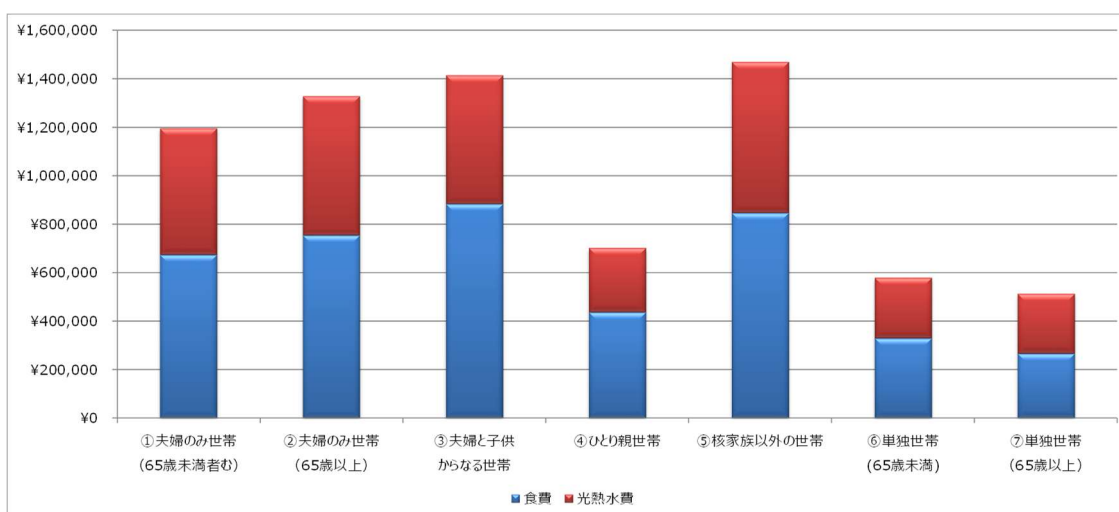
ア) 食費全体の消費額と域内購入率



美郷町の食費消費総額(予測)は約14.2億円であり、域内購入率は29.7%であった。域内購入率は低く、現状では10億円以上の食費が域外に流出している。域外に流出している食費を取り戻すことができれば大きな経済効果となるだろう。

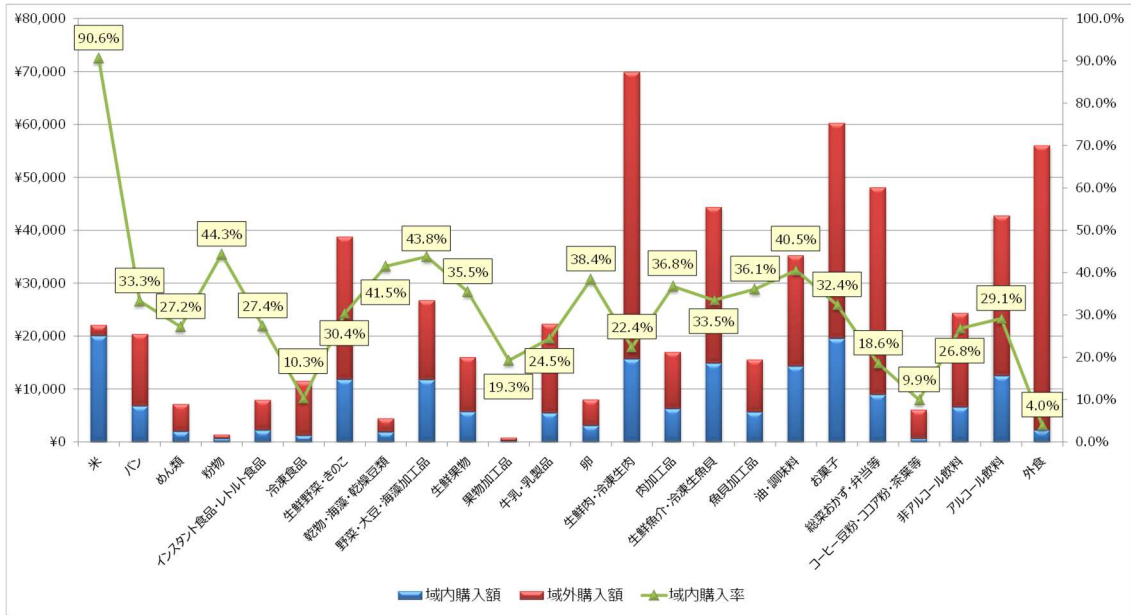
もし、流出額の約半分(5億円)を域内購入した場合の経済効果は、地元産品の購入状況によっても変わるが、おおよそ5,500万~1億円の新たな所得(人件費)が域内に発生する、これは約18~33世帯(54~100人)の子連れ世帯が新たに定住可能な所得額である。

イ) 世帯類型別 食費・光熱水費の支出額(1世帯当たり平均)



食費・光熱水費ともに、平均世帯人数が多い世帯類型ほど支出額が高い傾向にあるが、世帯人数1人当たりに換算すると、世帯人数が多いほど1人当たりの支出額は低くなる傾向にある。

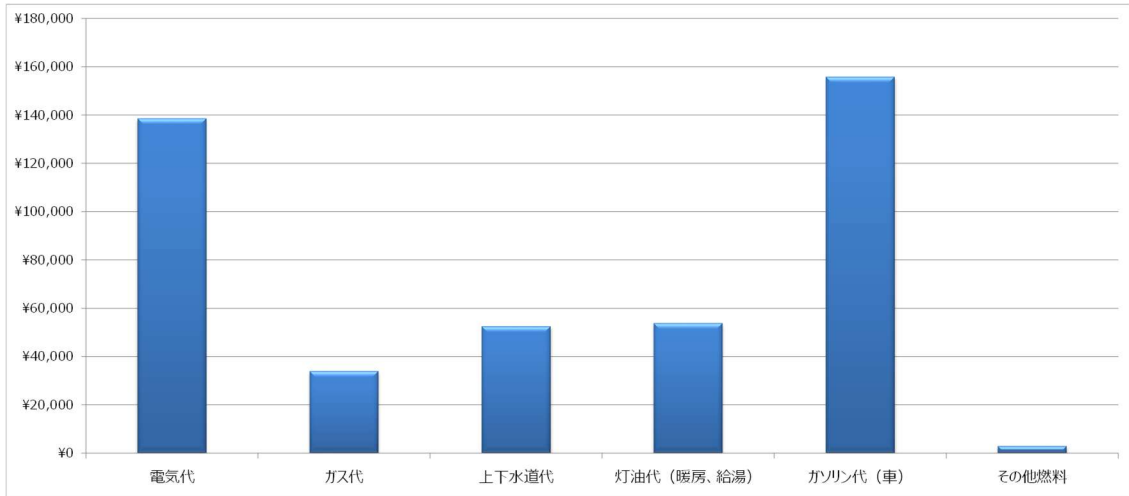
ウ) 食費 品目別支出額 (1世帯当たり平均)



支出額の第1位は「生鮮肉・冷凍生肉」(¥69,938)で7.8割が域外での消費となっている。第2位は「お菓子」(¥60,302)で6.8割が域外消費となり、第3位は「外食」(¥56,042)で9.5割が域外消費となっている。

域内購入率については全品目平均で約30%であったが、第1位は「米」(90.6%)で、第2位は「粉物」(44.3%)、第3位は「野菜・大豆・海藻加工品」(43.8%)となった。域内で生産している品目(「米」「野菜」など)の域内購入率が比較的高い数値となっている。

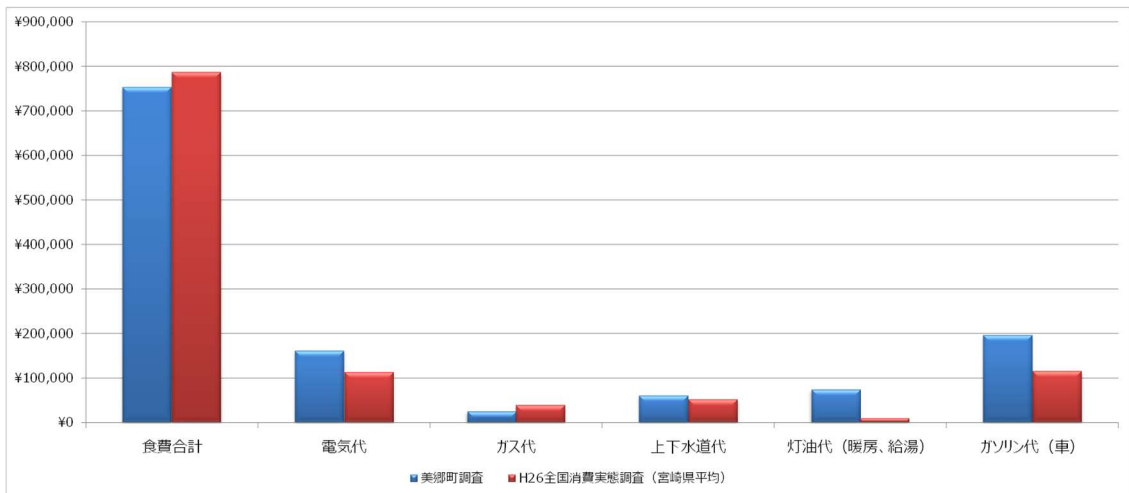
エ) 光熱水費 品目別支出額 (1世帯当たり平均)



光熱水費の中での支出額の第1位は「ガソリン代」(¥155,903)、第2位は「電気代」(¥138,629)、第3位は「灯油代」(¥53,788)であった。

「ガソリン代」「電気代」「灯油代」の3品目については地域性が顕著に表れる傾向にある。「ガソリン代」は生活に必要な拠点(スーパー、役場、医療機関等)までの距離が強く反映され、「灯油代(暖房、給湯)」「電気代」については地域気温が大きく影響してくる。

オ) 全国消費実態調査【宮崎県】との比較 (2人以上の世帯のみ)

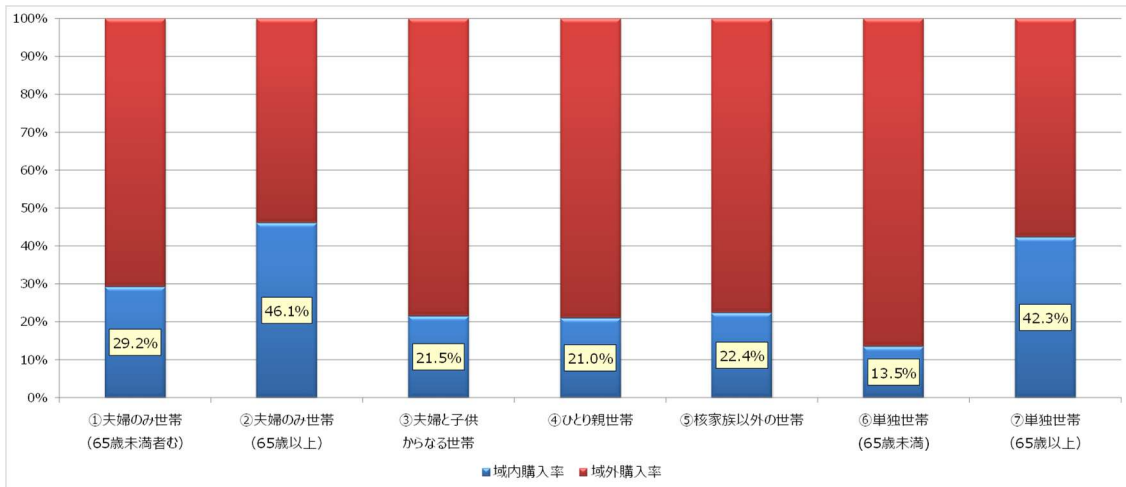


食費の支出額は宮崎県平均よりも僅かに低いが、電気代、上下水道代、灯油代(暖房・給湯)、ガソリン代は宮崎県平均より多く支出しており、暖房使用量や車移動距離等の地域性が表れた結果となった。

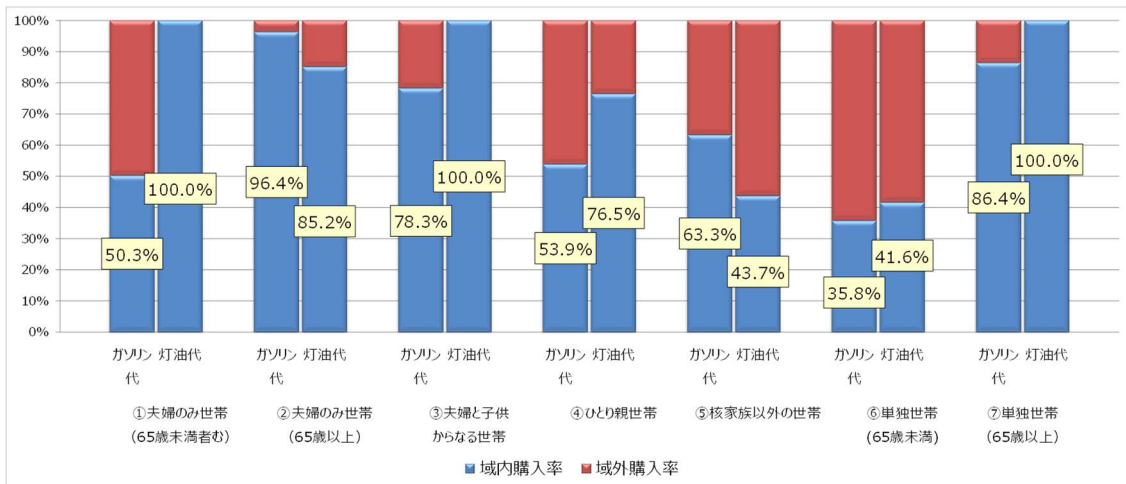
ただし、今回の調査では冬季(12~2月)の支出調査ができなかったため、暖房のための「電気代」「灯油代」は7~11月の支出傾向を基に算出した推計値であることから、実態と一致しない可能性もある。

(3) 域内での購入状況

ア) 世帯類型別 食費の域内外購入状況



イ) 世帯類型別 ガソリン・灯油代の域内外購入状況

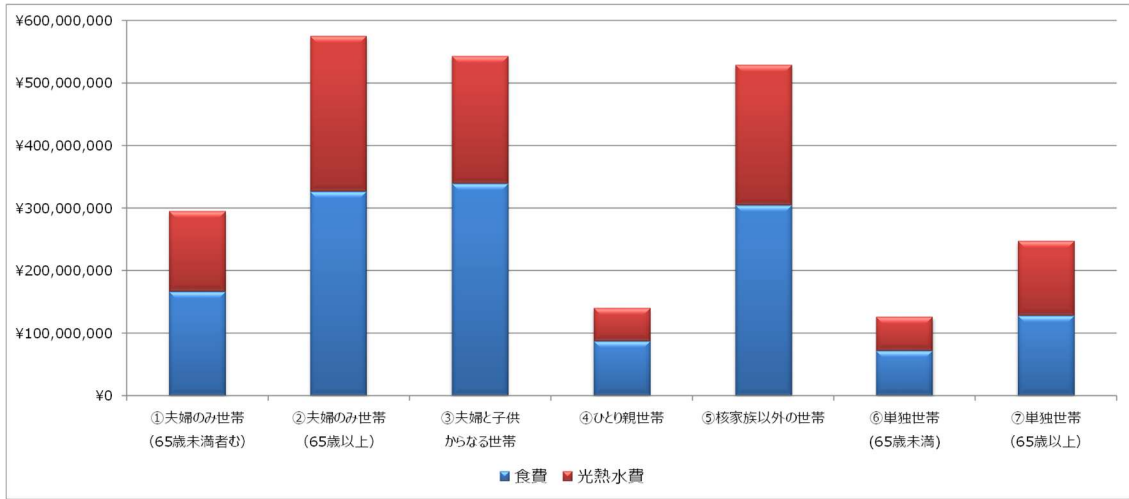


世帯類型によっても異なるが、全般的に食費の域内購入率は低め、ガソリン・灯油代の域内購入率は高めの傾向にあった。

食費の現状では域外購入している世帯が半数以上を占めているが、見方を変えると、現状で域内購入率が低い世帯類型ほど、所得取戻し可能性があるかと捉えることができ、新たな事業展開への活用を期待したい。

また、本調査に加え、美郷町世帯（消費者）の地域内購入・地元産品購入の意識や障壁（購入する際の諸問題）等を広く調査し、地産地消・地域内購入を促進する対策に活かすことも期待される。

(4) 美郷町世帯全体の食費・光熱水費支出額



1世帯当たりの支出額ではなく、全世帯合計の支出額を見ると、支出額・世帯数の多い「③夫婦と子供からなる世帯」と「⑤核家族以外の世帯」の2つの世帯類型で全体の4割以上の支出を占め、「④ひとり親世帯」を含めた子連れ世帯全体で見ると、全体の約5割の支出を占めていた。これらの子育て世帯を中心に地域内経済循環を検討していくことが効果的であると考えます。

「②夫婦のみ世帯(65歳以上)」と「⑦単独世帯(65歳以上)」の高齢世帯を見ると、合計916世帯で食費支出合計は約4.5億円(全体の3.2割)にも上っている。今後、地域内経済循環促進と同時に、高齢世帯を中心とした「買い物弱者」を減らす対策がより一層重要となっていく。

(5) 美郷町全体の食費部門に関する所得取り戻しの可能性

以上の家計調査の食費部門におけるデータ集約からは、次のような所得取り戻しの可能性が見えてくる。

① パン消費について

1世帯平均のパンの域内購入額は20,377円、域外購入額は13,595円となっている。これは、美郷町全体2,325世帯では、合計3,161万円分のパン購入代金が域外に流出していることを意味する。したがって、美郷町内に少なくともあと1~2軒のパン屋さんの起業や新規定住が成り立つ可能性は十分にある。

② 食費全体について流出状況と今後の「50%×50%作戦」

食費部門全体では、域内での購入額が4億2,239万円、域外での購入額が10億141万円と推計され、食費全体の70%分が域外流出していることになる。これは、多世代世帯や子供のいる世帯ほど、域外で購入する比率が高くなっているためである。

今後、「各品目の域内購入率を高める～まずは50%を美郷町内で買う」と「各品目の地元産品比率を高める～美郷町内で買う食料の50%は地元産を実現」という「50%

×50%作戦」が実現できれば、町全体で推計3億円以上の所得（人件費）増につながるものと期待される。今回明らかになった品目別の域内購入率等を参考にさせていただき、やり易い品目から手を付け、年に1%ずつでも、域内購入率と地元産品産比率を高めていくことを提案したい。

（6）一覧表

ア）品目大分類（1世帯当たり）

品目大分類	①夫婦のみ世帯 (65歳未満者む)		②夫婦のみ世帯 (65歳以上)		③夫婦と子供 からなる世帯		④ひとり親世帯	
	支出額	域内購入率	支出額	域内購入率	支出額	域内購入率	支出額	域内購入率
食費	¥673,439	29%	¥754,167	46%	¥883,325	21%	¥436,384	21%
日用品・衣服・美容・余暇	¥321,291	10%	¥377,572	29%	¥599,541	8%	¥342,739	11%
光熱水費	¥521,630	29%	¥573,824	49%	¥530,846	36%	¥265,202	22%
住まい・家具・家電・車関連費	¥1,043,097	8%	¥774,931	44%	¥1,042,164	3%	¥434,310	12%
通信費	¥408,714	0%	¥215,584	0%	¥372,280	0%	¥123,669	0%
教育・学習費	¥383,652	2%	¥136,954	4%	¥391,351	12%	¥266,990	22%
保健医療健康費・福祉サービス	¥68,880	30%	¥209,458	23%	¥212,145	20%	¥78,390	4%
保険・税金	¥1,192,243	0%	¥810,311	0%	¥1,346,224	0%	¥884,618	0%
つきあい費・旅費・交通費・その他	¥342,257	1%	¥753,746	1%	¥451,318	0%	¥312,149	0%
年間合計支出額	¥4,955,203	10%	¥4,606,548	25%	¥5,829,192	9%	¥3,144,452	10%

品目大分類	⑤核家族以外 の世帯		⑥単独世帯 (65歳未満)		⑦単独世帯 (65歳以上)	
	支出額	域内購入率	支出額	域内購入率	支出額	域内購入率
食費	¥845,771	22%	¥329,319	13%	¥265,227	42%
日用品・衣服・美容・余暇	¥443,528	18%	¥219,857	13%	¥244,063	53%
光熱水費	¥623,861	36%	¥249,301	16%	¥247,403	19%
住まい・家具・家電・車関連費	¥1,552,400	1%	¥487,826	15%	¥256,994	16%
通信費	¥458,853	0%	¥182,127	0%	¥77,221	0%
教育・学習費	¥613,932	9%	¥114,572	7%	¥76,415	0%
保健医療健康費・福祉サービス	¥160,605	15%	¥73,158	11%	¥85,573	21%
保険・税金	¥1,533,958	0%	¥464,223	0%	¥719,993	0%
つきあい費・旅費・交通費・その他	¥675,183	0%	¥262,594	1%	¥186,642	0%
年間合計支出額	¥6,908,091	9%	¥2,382,977	9%	¥2,159,532	16%

イ) 食費・光熱水費品目別 (1世帯当たり)

		①夫婦のみ世帯 (65歳未満者む)		②夫婦のみ世帯 (65歳以上)		③夫婦と子供 からなる世帯		④ひとり親世帯		
		支出額	域内購入率	支出額	域内購入率	支出額	域内購入率	支出額	域内購入率	
食費	米	¥14,863	100%	¥78,563	99%	¥9,776	81%	¥8,462	81%	
	パン	¥14,498	50%	¥16,329	27%	¥39,552	27%	¥18,463	31%	
	めん類	¥9,817	33%	¥4,617	37%	¥12,733	31%	¥5,815	14%	
	粉物	¥1,504	47%	¥3,576	59%	¥948	7%	¥439	7%	
	インスタント食品・レトルト食品	¥11,675	9%	¥5,737	26%	¥13,869	30%	¥9,515	24%	
	冷凍食品	¥21,711	19%	¥6,072	8%	¥15,551	8%	¥6,041	2%	
	生鮮野菜・きのこ	¥47,019	39%	¥32,047	37%	¥66,427	25%	¥39,264	20%	
	乾物・海藻・乾燥豆類	¥3,606	62%	¥6,467	77%	¥8,312	6%	¥2,000	40%	
	野菜加工品・大豆加工品・海藻加工品	¥22,774	56%	¥39,773	60%	¥19,214	25%	¥10,798	22%	
	生鮮果物	¥9,275	42%	¥36,806	48%	¥15,051	14%	¥8,230	25%	
	果物加工品	¥951	15%	¥710	0%	¥1,150	13%	¥501	4%	
	牛乳・乳製品	¥20,902	8%	¥27,090	45%	¥39,795	13%	¥16,905	22%	
	卵	¥7,976	30%	¥10,847	58%	¥13,039	32%	¥7,099	16%	
	生鮮肉・冷凍生肉	¥84,590	23%	¥93,603	28%	¥82,058	19%	¥57,905	8%	
	肉加工品	¥19,795	35%	¥18,669	21%	¥32,022	52%	¥13,417	14%	
	生鮮魚介・冷凍生魚介	¥18,052	25%	¥84,496	41%	¥44,390	23%	¥21,675	17%	
	魚貝加工品	¥29,118	26%	¥17,131	51%	¥14,483	18%	¥8,028	20%	
	油・基本調味料・味付け調味料	¥34,240	35%	¥67,060	64%	¥37,939	24%	¥14,324	13%	
	お菓子	¥57,834	43%	¥38,944	56%	¥108,523	24%	¥68,857	39%	
	総菜おかず・弁当等	¥75,080	16%	¥42,774	33%	¥82,315	12%	¥25,680	38%	
	コーヒー・豆粉・ココア粉・茶葉等	¥3,270	18%	¥4,791	20%	¥14,549	3%	¥4,256	11%	
	非アルコール飲料	¥44,666	33%	¥14,881	27%	¥38,411	19%	¥19,822	18%	
	アルコール飲料	¥73,542	30%	¥69,304	28%	¥62,897	36%	¥3,844	21%	
	その他	¥2,557	6%	¥8,461	58%	¥7,775	0%	¥1,143	38%	
	外食	¥44,125	0%	¥25,418	4%	¥102,547	8%	¥63,902	3%	
	光熱水費	電気代・燃料代	電気代	¥168,469	0%	¥155,750	0%	¥199,161	0%	¥83,764
ガス代			¥25,370	0%	¥25,980	0%	¥30,949	0%	¥28,995	0%
ガソリン代(車)			¥221,798	50%	¥133,334	96%	¥202,301	78%	¥83,105	54%
軽油代(車等)			¥128	100%	¥2,793	100%	¥647	100%	¥0	0%
混合燃料代(草刈機等)			¥491	87%	¥2,101	100%	¥744	87%	¥0	0%
灯油代(暖房、給湯)			¥36,659	100%	¥175,403	85%	¥27,499	100%	¥16,363	76%
薪・ペレット代			¥1,324	0%	¥4,218	0%	¥1,097	0%	¥0	0%
その他			¥2,816	100%	¥367	100%	¥2,922	100%	¥0	0%
上下水道代・汲み取り等		上水道代	¥37,309	0%	¥29,753	0%	¥40,454	0%	¥38,547	0%
		下水道代	¥20,304	0%	¥35,264	0%	¥17,681	0%	¥14,428	0%
		尿尿汲み取り代	¥4,149	0%	¥0	0%	¥3,149	0%	¥0	0%
		簡易浄化槽手入れ費用	¥2,483	0%	¥8,517	0%	¥4,077	0%	¥0	0%
		その他	¥331	0%	¥344	0%	¥166	0%	¥0	0%

		⑤核家族以外の世帯		⑥単独世帯(65歳未満)		⑦単独世帯(65歳以上)		
		支出額	域内購入率	支出額	域内購入率	支出額	域内購入率	
食費	米	¥7,679	88%	¥4,281	81%	¥9,455	37%	
	パン	¥23,620	25%	¥10,364	22%	¥14,663	59%	
	めん類	¥9,705	12%	¥5,981	21%	¥2,840	45%	
	粉物	¥1,022	32%	¥438	22%	¥740	42%	
	インスタント食品・レトルト食品	¥10,099	48%	¥4,016	18%	¥2,859	15%	
	冷凍食品	¥26,369	9%	¥4,770	4%	¥2,230	14%	
	生鮮野菜・きのこ	¥52,546	32%	¥17,339	13%	¥17,889	36%	
	乾物・海藻・乾燥豆類	¥2,932	27%	¥2,517	30%	¥3,024	53%	
	野菜加工品・大豆加工品・海藻加工品	¥30,475	24%	¥8,702	18%	¥35,230	49%	
	生鮮果物	¥12,084	36%	¥8,131	7%	¥11,420	32%	
	果物加工品	¥1,387	40%	¥593	4%	¥298	38%	
	牛乳・乳製品	¥22,247	18%	¥20,186	27%	¥8,081	40%	
	卵	¥9,315	29%	¥1,799	24%	¥3,731	54%	
	生鮮肉・冷凍生肉	¥114,370	22%	¥36,562	7%	¥18,523	40%	
	肉加工品	¥22,132	37%	¥5,966	37%	¥4,762	37%	
	生鮮魚介・冷凍生魚貝	¥50,602	25%	¥9,415	9%	¥42,414	43%	
	魚貝加工品	¥18,022	43%	¥9,296	7%	¥12,304	54%	
	油・基本調味料・味付け調味料	¥36,312	21%	¥17,738	9%	¥20,948	46%	
	お菓子	¥94,974	30%	¥44,095	13%	¥20,303	30%	
	総菜おかず・弁当等	¥72,090	12%	¥23,017	20%	¥14,646	28%	
	コーヒー・豆粉・ココア粉・茶葉等	¥9,030	16%	¥4,948	3%	¥988	4%	
	非アルコール飲料	¥43,050	30%	¥14,910	22%	¥3,552	52%	
	アルコール飲料	¥45,886	21%	¥20,440	7%	¥11,226	50%	
	その他	¥7,752	93%	¥2,245	38%	¥938	32%	
外食	¥122,074	1%	¥51,568	3%	¥2,166	64%		
光熱水費	電気代・燃料代	電気代	¥165,387	0%	¥60,576	0%	¥97,897	0%
		ガス代	¥15,626	0%	¥46,488	0%	¥57,878	0%
		ガソリン代(車)	¥311,260	63%	¥101,009	36%	¥44,676	86%
		軽油代(車等)	¥0	0%	¥236	100%	¥0	0%
		混合燃料代(草刈機等)	¥1,045	87%	¥2,528	67%	¥413	100%
		灯油代(暖房・給湯)	¥60,153	44%	¥5,369	42%	¥7,029	100%
		薪・ペレット代	¥0	0%	¥335	0%	¥0	0%
		その他	¥1,510	100%	¥108	100%	¥0	0%
	上下水道代・汲み取り等	上水道代	¥38,494	0%	¥18,429	0%	¥23,378	0%
		下水道代	¥25,267	0%	¥8,683	0%	¥13,689	0%
		尿尿汲み取り代	¥0	0%	¥1,600	0%	¥0	0%
		簡易浄化槽手入れ費用	¥5,119	0%	¥3,931	0%	¥0	0%
		その他	¥0	0%	¥9	0%	¥2,443	0%

2. 移住後生活費シミュレーション

今回の業務で実施した家計調査の結果を基に、美郷町移住後の生活費シミュレーションが可能となる、家計調査結果活用の一例として生活費シミュレーションを紹介する。

しかし、取得できたサンプル数がまだ十分ではないため、以下の前提条件を設定した。

- ・島根県中山間地域研究センターで収集している「島根・広島県の中山間地域世帯での家計支出」と、美郷町世帯の支出状況は類似していると仮定した。

(食費・光熱水費以外は島根県・広島県の中山間地域世帯での平均家計支出を使用した：約 150 世帯分)

※今後、家計調査を継続して実施することで、より美郷町の実態に沿った結果を示すことが可能となる。

シミュレーションは社会移動（引越し）が比較的多いと予測される、以下の 3 世帯が移住した場合を想定した。

- 30 歳代前半夫婦が 4 歳以下の子供を連れて U・I ターン (3 人)
- 20 代前半夫婦が U・I ターン (2 人)
- 60 代前半夫婦 (定年退職者) が U・I ターン (2 人)

(1) シミュレーション1 (30代子連れ夫婦の移住)

【前提条件】

年 齢：夫 33 歳、妻 30 歳、子ども 3 歳

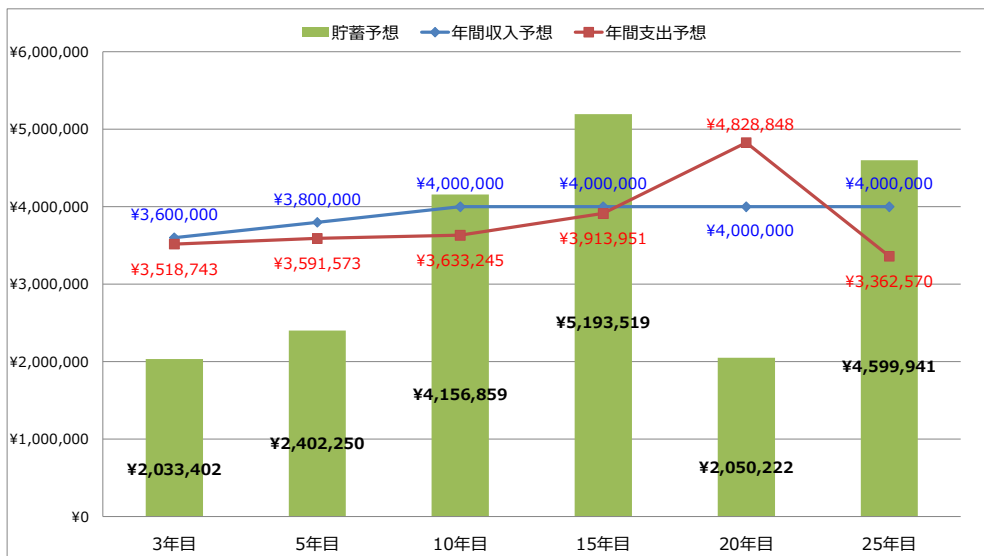
世帯収入：約 300～400 万円で推移（夫：会社員、妻：パート）

住 居：アパート

子ども 1：大学進学を想定する。大学進学までは自宅（町内）から通学し、大学進学後は都市部で 1 人暮らし。（高校・大学の奨学金はなしと想定）

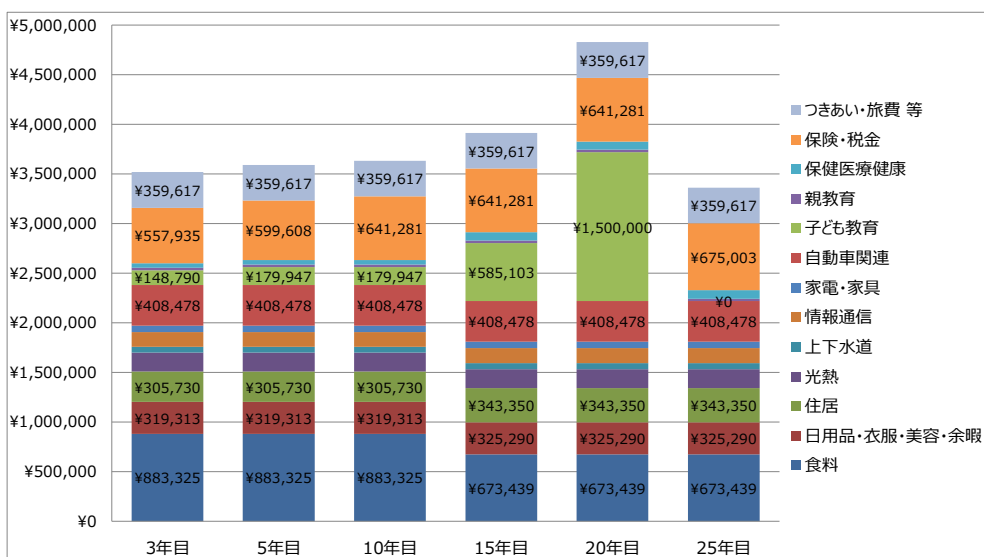
貯 蓄：移住前の貯蓄額は約 200 万円

ア) 収入・支出グラフと貯蓄額推移



収入と支出のバランスが取れており、徐々に貯蓄額も増えている。子どもの大学在学中の支出も貯蓄内で賄え、長期的に安定した美郷町在住が可能となる。

イ) 品目別の支出額推移



最も支出が多い時期は、子どもが大学進学時（教育費）であり、この時期までに計画的に貯蓄をする必要性が明確となる。

(2) シミュレーション2 (20代前半夫婦の移住)

【前提条件】

年 齢：夫 24 歳、妻 24 歳

世帯収入：約 150～350 万円で推移（夫：自営農業、妻：自営農業）

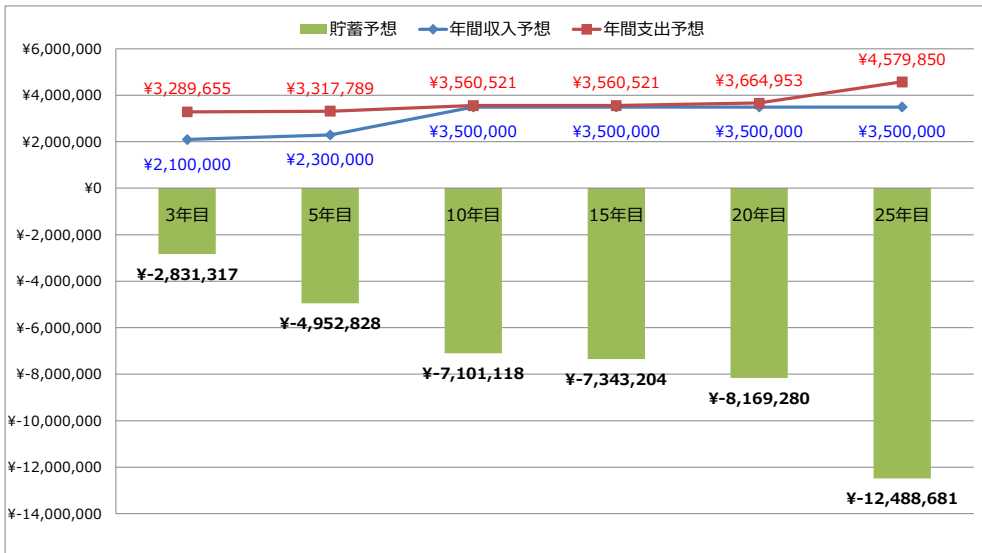
（移住後 2 年間は補助金 150 万円受給、3 年目以降は 200～350 万円が世帯収入）

住 居：戸建て（借家）

子ども 1：移住 2 年目に出産し、大学進学を想定する。大学進学までは自宅（町内）から通学し、大学進学後は都市部で 1 人暮らし。（高校・大学の奨学金はなしと想定）

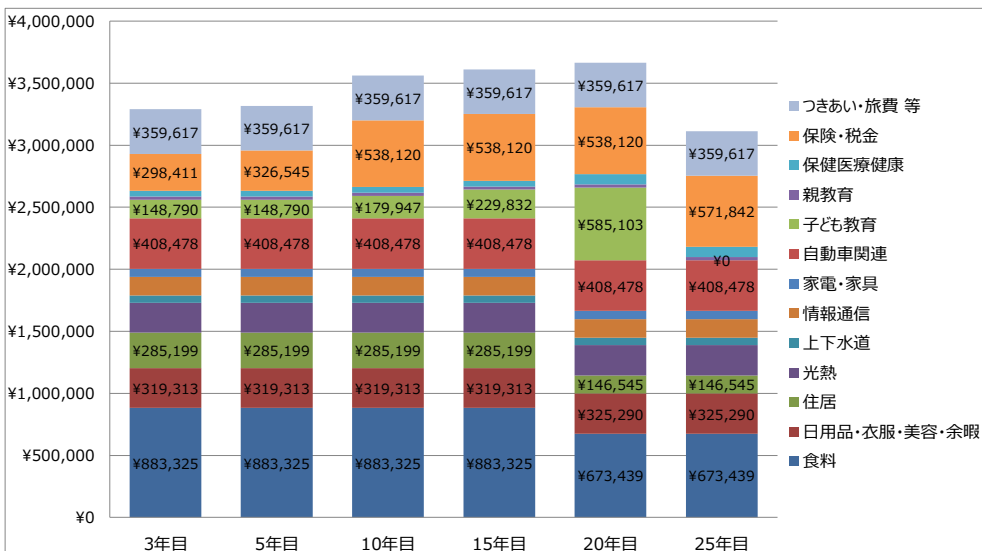
貯 蓄：移住前の貯蓄額は約 50 万円

ア) 収入・支出グラフと貯蓄額推移



貯蓄額がマイナスとなっており、平均的な支出をすると経済的に厳しい生活になると予測される。支出を減らすか、収入を増やす計画が必要となる。

イ) 品目別の支出額推移



(3) シミュレーション3 (60代前半夫婦の移住)

【前提条件】

年 齢：夫 61 歳、妻 60 歳

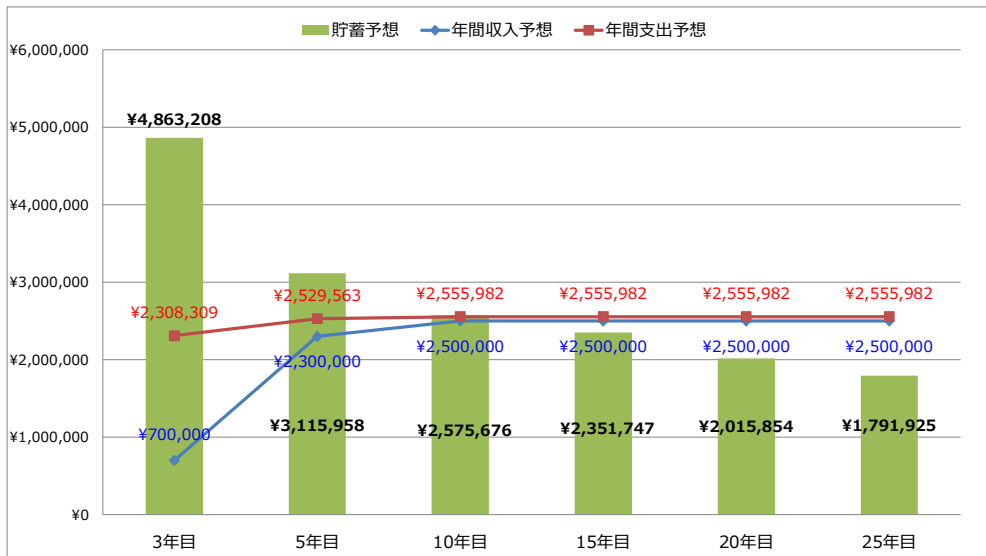
世帯収入：約 50～250 万円で推移（夫：自営農業、妻：自営農業）

（移住後、小規模農業を始め、月 5～10 万円の収入、65 歳からは年金を受給）

住 居：戸建て（借家）

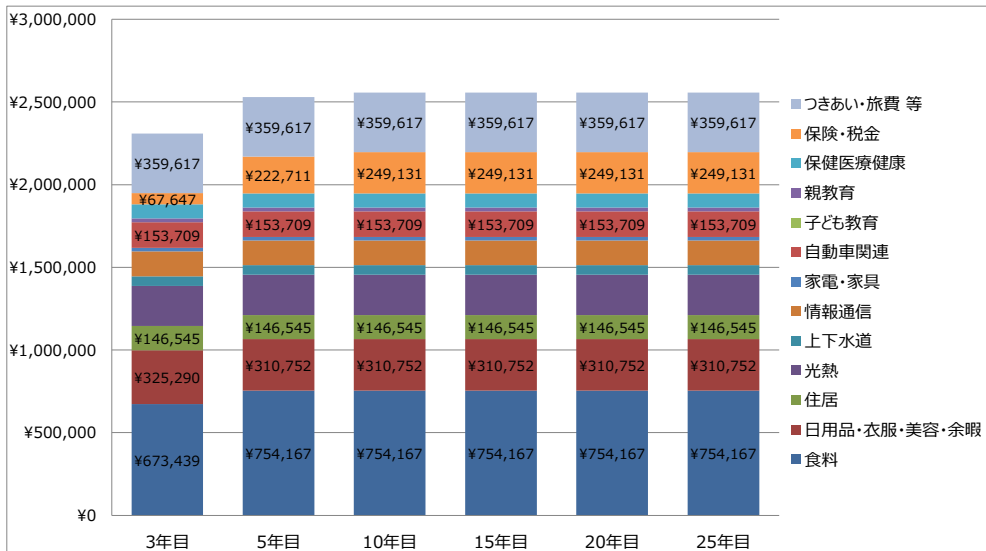
貯 蓄：移住前の貯蓄額は約 1,000 万円

ア) 収入・支出グラフと貯蓄額推移



年金受給が開始されるまでは、大幅に貯蓄を切り崩しての生活となるが、年金受給後は長期的に安定した美郷町在住が可能となる。だが、僅かに支出が収入を上回っているため貯蓄額が減少傾向にある。そのため支出を減らすか、収入を増やす計画を立て実践すると、より安定した美郷町在住が可能となる。

イ) 品目別の支出額推移



IV 報告会編

今年度の家計調査の成果を受けとめ、今後の取り組みの方向を考える報告講演会を開催した。

1. 報告講演会「美郷町地域経済循環分析（家計調査）報告会」

(1) 概要

日 時：2021年3月28日（月）13：30～15：30

場 所：西郷ニューホープセンター

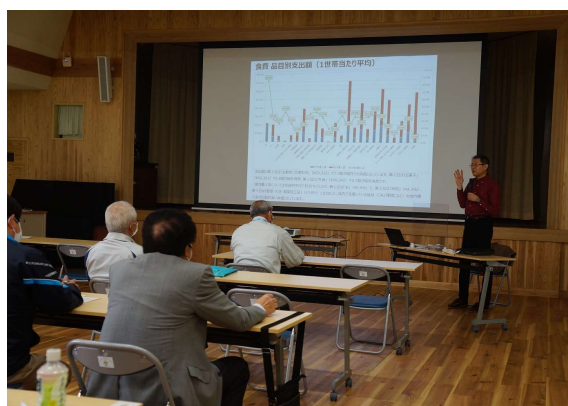
参加者：町長、企画情報課5名、建設課2名、健康福祉課1名、政策推進室1名、議会4名、商工会6名、合計約20名

(2) 当日の進行

1. 開会
2. 概要説明
3. 成果報告及び全国の先進事例紹介
報告者：一社）持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山 浩
4. 質疑応答
5. その他
6. 閉会

(3) 報告内容と成果

家計調査の結果を報告するとともに、家計調査の活用事例の紹介や、循環型の暮らしと経済に向けての政策提言を行った。特色を活かした暮らしができる地域としていくため、地域経済循環が美郷町内に広がり、今後の対策等に活かされることに期待したい。

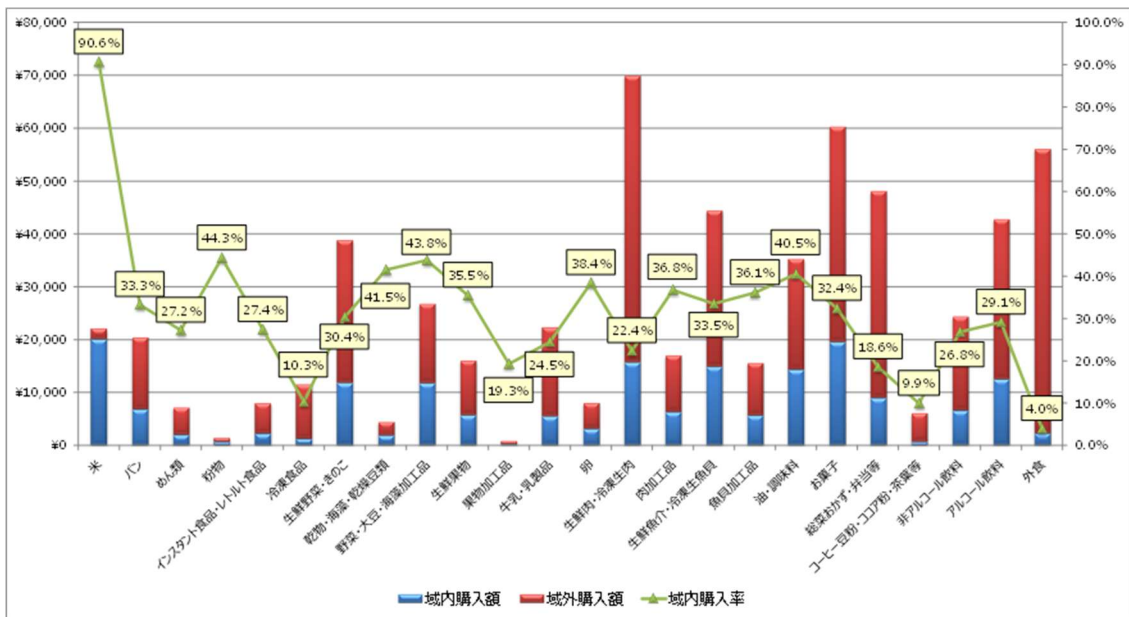


<報告会の様子>

V 政策提言編 ～所得の取り戻しに向けて～

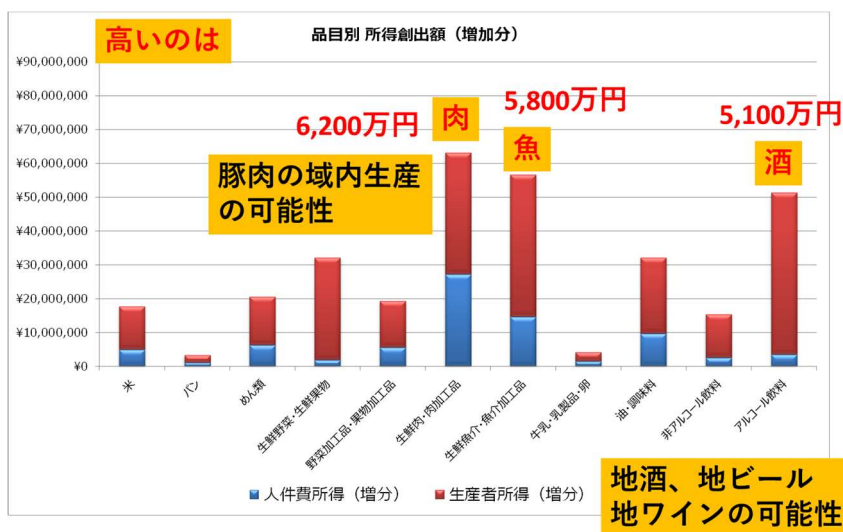
1. 調査結果を活かし、ターゲットを明確にした起業支援

今回の家計調査では、下図のような食費部門における品目別の地域内外における支出状況が明らかになっている。やみくもに地産地消を進めるのではなく、購入金額も大きく同時に域外購入率も高い品目（肉、外食、お菓子、魚介類、アルコール、総菜、野菜など）を中心に重点的な起業支援をすることが望まれる。



<食費 品目別支出額(1世帯当たり平均)> *再掲

また、さらに発展調査としては、流通や生産者までの事業体調査を行うことで、地産地消率を上げた時の所得創出効果等も算出可能である。



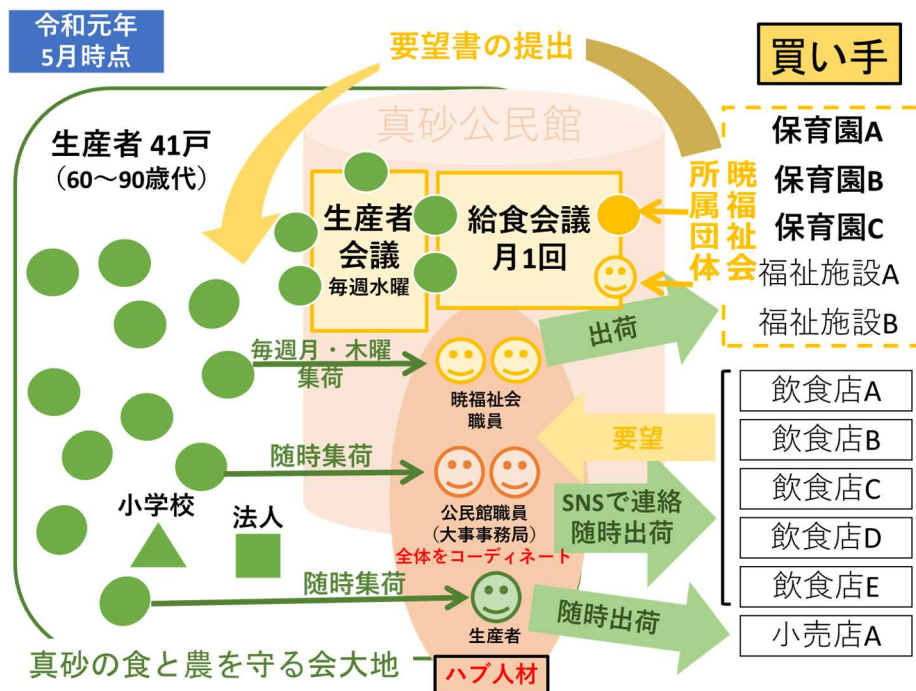
<益田市の飲食業界における地産地消の改善効果シミュレーション例>

2. 美郷町内に域内循環の仕組みづくりを

今後、美郷町で域内循環を強化するためには、6次産業化も含む分野横断の地産地消を促進することが必要であり、生産者・加工業者と消費者・飲食店・宿泊施設との情報共有の必要性が求められている。

生産・消費の双方において流通量は少量多品種となるため、きめの細かい需要と供給のすり合わせが、つなぎ役となる拠点・人材ならびに情報共有システムの整備により実現することが望まれる。

例えば、島根県益田市真砂地区が成功しているような公民館を拠点とするハブ人材の配置と関連する SNS による情報共有システム等を参考にしていきたい。

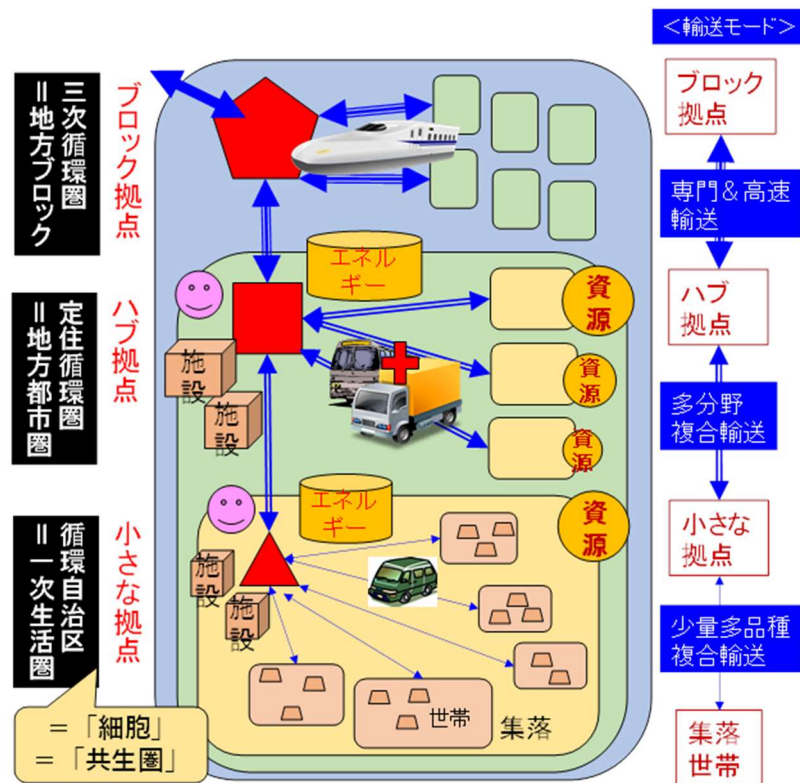


＜島根県益田市真砂地区の食の循環のつなぎ方＞

3. 循環型社会への進化を展望

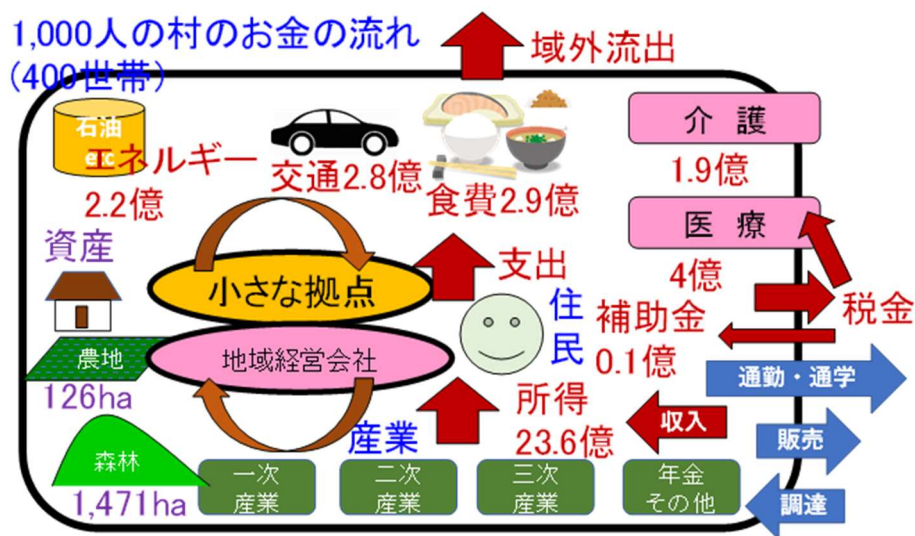
地域そして地球の持続可能性を考えると、私たちは、これから必ず循環型社会への進化を図らなければならない。この2020年代に生まれている子どもたちは、ほぼ確実に2101年、22世紀を迎えるのだ。

循環型社会は、次のような3層の循環圏により構成されることが想定される。



<想定される三層の循環圏の構築>

次の図は、中山間地域において1,000人（400世帯）が居住する村を想定して、お金の流れを具体的に描いてみたものである。1人当たり200万強の平均所得を基にすると、全体で20億円強の住民所得を有する経済圏となる。



<1,000人の村(=循環自治区)におけるお金の流れ>

*詳しい積算根拠は「小さな拠点をつくる」(2019年、農文協)5章を参照。

支出で大きい分野は、今や医療と介護費用となっており、合わせて約6億円に上る。持続可能な地域社会総合研究所の調査分析によれば、地域づくりと生涯現役型の農林漁業が息づいている農山漁村ほど、お達者度が高く介護費用を大きく浮かせている傾向が見出されている。1割のお達者度の改善は、6,000万円の介護費用削減となるのだ。このように、「循環自治区」においては、分野ごとの売上げだけを勘定する「単独決算」ではなく、分野を横断して全体最適を実現する「連結決算」の発想が重要となる。

日々の生活を支える出費の御三家は、食費・交通費・エネルギー代だ。それぞれ2億円以上が使われ、合計で約8億円と所得額の3分の1以上を占めている。問題は、これらの出費の大部分が域外へ流出していることだ。現状では、食料・エネルギー・交通に関する支出の大半(推計8億円中の6億円)が域外に流れ出ている。このままでは、今後30年の間に、合計180億円もの巨額を失うことになる。

そこで、食料・エネルギーについては、まさに「自然の利子」を生み出す地元の農地・森林資源を活用して、耕作放棄地の解消や産直市・地元食堂の創設そして熱電供給のエネルギーステーションの整備といった域内投資を行い、地産地消度を年々高めていく。農業と太陽光発電を同時に行うソーラーシェアリングや森林バイオマスエネルギー活用も有望である。1世代程度の長期的な損得勘定(内部収益率等)を考えると投資の効果は明白であり、域外流出額の減少と域内所得の向上を同時にもたらす。

また、中山間地域の弱点である交通は、前述のように共同車両利用のカーシェアリングや自動運転&EV化への投資を進め、大きく支出を減じていく。住民自ら地域内で年金を投資して、増やす時代である。すでに国内外では、様々なエネルギー・交通面での果敢なチャレンジが始まっている。



山口県初
水田での
ソーラーシェアリング

山口市阿東町
「阿東つばめ農園」
おひさま発電所



家畜の糞尿でメタンガス発酵させ、電力と熱を創り出す牧場

オーストリア・チロル地方・ヴェルゲル(14,000人)では、「シュタットベルゲ(都市公社)」が上下水道・電気事業から進化し、**熱供給事業、交通(EVによるカーシェアリング)**にも乗り出す。



★ 地元の大手
酪製品会社の
廃熱利用

35%の事業所・世帯を熱パイプで供給



カーシェアリング
用のEV



輪島市自動運転実験

4人乗りゴルフカートを改造

道路に
誘導線
埋め込み

スイス・ツェルマットの小型EV

<国内外におけるエネルギー・交通の新たなチャレンジ>

成果物について

本業務の成果物として、以下のファイルを別途DVD-ROMで納品する。

ラベル名：【令和3年度 未来へ駆ける市町村地域づくり総合支援事業
美郷町地域経済循環分析（家計調査）委託業務 成果物】

- 本報告書の電子データ(PDF) × 1ファイル
- 本報告書の電子データ(WORD) × 1ファイル

執筆者リスト

業務代表者 藤山 浩
(一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所 所長)

業務協力者 森山 慶久
(一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所 理事)

令和3年度

未来へ駆ける市町村地域づくり総合支援事業
美郷町地域経済循環分析（家計調査）委託業務

発行年月：令和4年3月

発行：宮崎県美郷町

〒883-1101 宮崎県東臼杵郡美郷町西郷田代1番地

TEL: 0982-66-3601

一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所

〒699-3671 島根県益田市津田町1401